黒田精工株式会社
（証券コード：7726）

2027年3月期 第2四半期（中間期）決算補足説明資料

＜目次＞

1．2027年3月期 第2四半期　決算概要
2．通期連結業績予想、配当予想
3．TOPICS

2026年11月17日

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

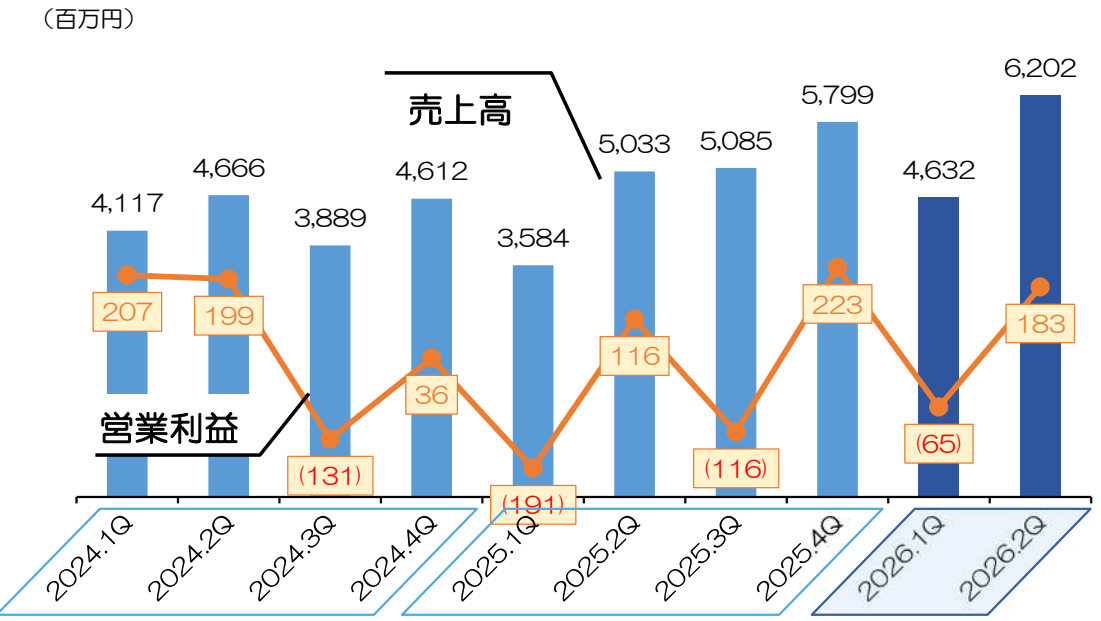
1．2027年3月期 第2四半期　決算概要

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

2026年度第2四半期 連結決算概要

KURODA

（単位：百万円）	2025年度 第2四半期累計	業績予想 26年5月13日付	2026年度 第2四半期累計	増減 （前年同期比）	増減 （業績予想比）
受注高	10,012	-	14,253	+4,240	-
売上高	8,617	11,100	10,835	+2,218	△264
営業利益	△74	150	117	+192	△34
経常利益	△87	50	△34	+53	△84
親会社株主に帰属する当期純利益	120	10	714	+593	+704



- 受注高は、半導体・液晶関連装置市場向け駆動システム商品の受注が高水準で継続し、14,253百万円（前年同期比42.4%増）と大幅に増加。
- 売上高は駆動システムを中心に全セグメントで対前年増収となり、10,835百万円（同25.7%増）。
- 営業利益は駆動システム・機工計測システムが黒字回復した一方、金型が新規プロジェクト立上げ費用の先行等で損失を計上し117百万円。さらに、経常損益は持分法損失の影響により△34百万円となったが、投資有価証券売却益の計上により中間純利益は714百万円（同＋593百万円）。

CHALLENGE & CREATE

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

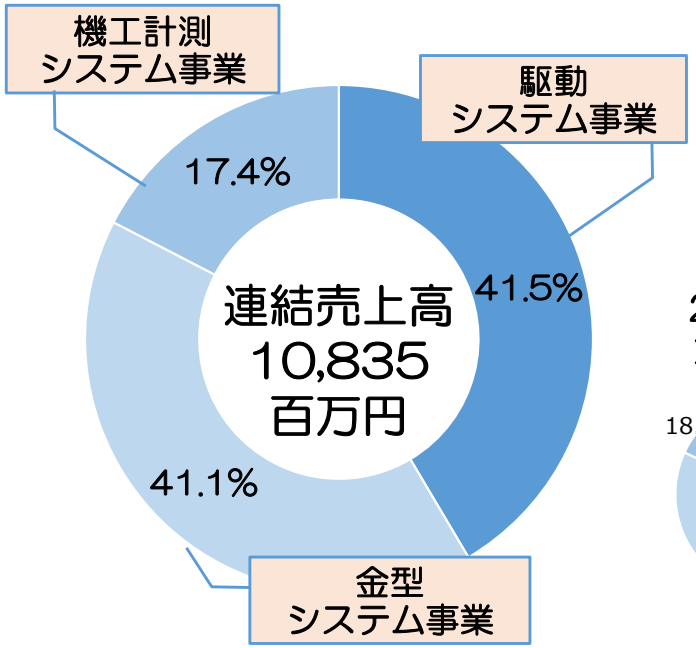
セグメント別概要

（単位：百万円）	受注高 （前年同期比）	売上高 （前年同期比）	営業損益 （前年同期比）
駆動システム事業	7,879 （+4,975）	4,519 （+1,539）	548 （+702）
金型システム事業	4,039 （△705）	4,456 （+365）	△564 （△691）
機工計測システム事業	2,359 （△18）	1,885 （+324）	139 （+179）

◆駆動：半導体関連装置市場向け商品の受注が高水準で継続し、受注高は半期ベースで過去最高（前年同期比171.4%増）。売上高も51.6%増となり、単体・米国子会社の採算が大幅に改善し、営業利益548百万円と黒字回復。

◆金型：モーターコア等の受注減少により受注高は14.9%減。売上高は車載用モーターコアの増加により8.9%増となったが、金型の短納期対応による外注費増加、新規プロジェクト立上げ費用の先行等により営業損失564百万円を計上。

◆機工計測：前年同期の精機部門大口受注の反動で受注高は0.8%減。売上高は工作機械・要素機器部門の増加で20.8%増となり、営業利益139百万円と黒字回復。



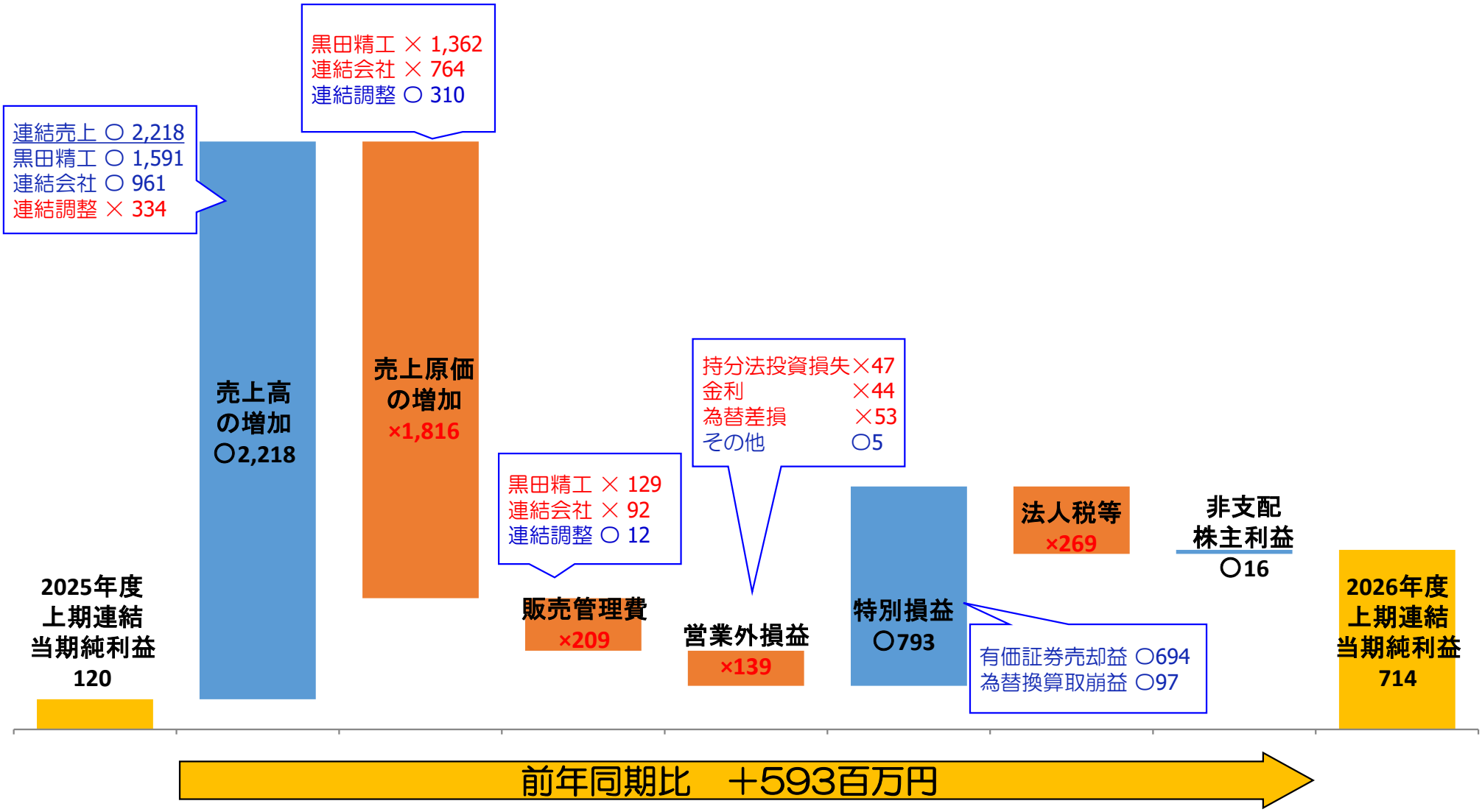
2026© KURODA Precision Industries Ltd.

利益増減要因

○印　利益の増加
×印　利益の減少

前年同期比　連結当期純利益の変動要因

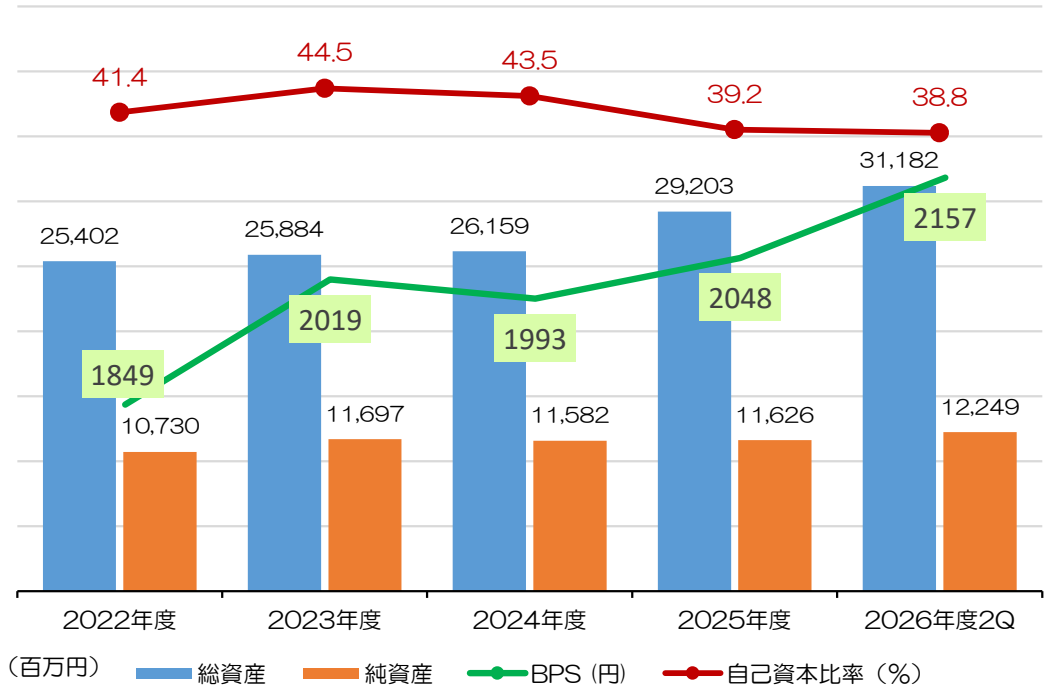
（単位：百万円）



2026© KURODA Precision Industries Ltd.

連結貸借対照表

	2025年度（2026年3月期）	2026年度 第2四半期	増減
総資産 （百万円）	29,203	31,182	+1,979
純資産 （百万円）	11,626	12,249	+623
負債合計額 （百万円）	17,576	18,932	+1,355
自己資本比率 （%）	39.2	38.8	△0.4
1株あたり純資産【BPS】（円）	2,048	2,157	+108



- 総資産：前年度末比 +1,979百万円の増加
  - →流動資産の増加 +2,404百万円（売掛金等）
  - →固定資産の減少 △425百万円（繰延税金資産等）
- 純資産：前年度末比 +623百万円の増加
  - →株主資本の増加 +689百万円（利益剰余金等）
  - →その他包括利益の減少 △51百万円（為替換算調整勘定等）
- 負債：前年度末比 +1,355百万円の増加
  - →流動負債の増加 +1,615百万円（仕入債務等）
  - →固定負債の減少 △259百万円（長期借入金等）
- 自己資本比率：38.8% 前年度末比 0.4pt減少

CHALLENGE & CREATE

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

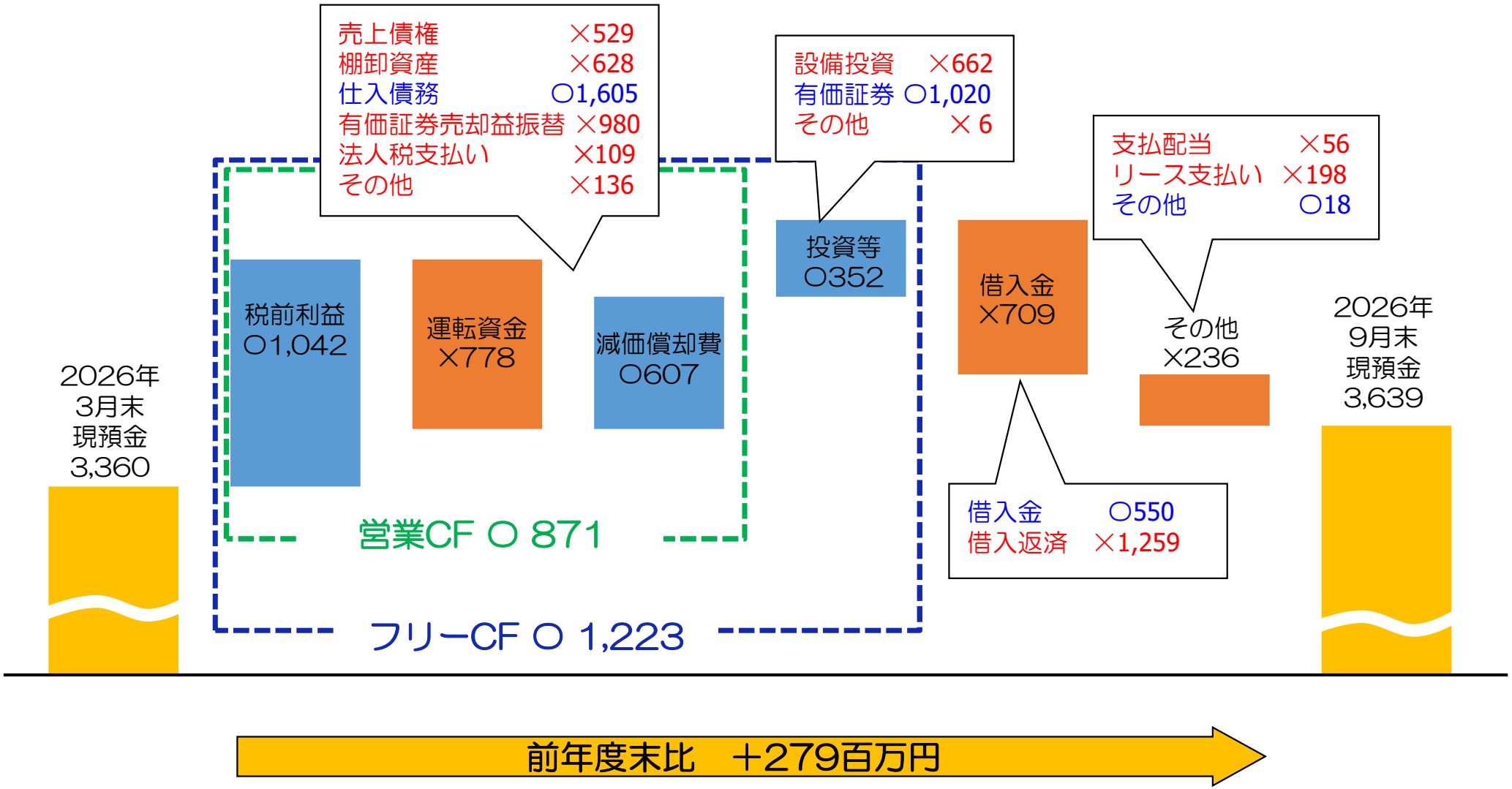
連結キャッシュ・フローの状況

KURODA

〇印　資金の増加
×印　資金の減少

前年度末比　連結キャッシュ・フローの変動要因

（単位：百万円）



前年度末比　＋279百万円

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

2.　通期連結業績予想、配当予想

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

2026年度通期連結業績、配当予想

KURODA

単位記載の無い項目は百万円	前年度通期実績（26年3月期）	2026年度第2四半期累計予想 26年5月13日付	2026年度第2四半期累計実績	今年度通期予想 26年5月13日付	今年度通期予想 26年11月13日付
売上高	19,501	11,100	10,835	25,800	25,800
営業利益	32	150	117	770	770
経常利益	11	50	△34	550	550
親会社株主に帰属する当期純利益	△96	10	714	330	未定
１株あたり年間配当金（円）	20円00銭	—	—	20円00銭	20円00銭
配当性向（%）	—	—	—	34.3%	-

- ◆ 2027年3月期の通期連結業績予想の当期純利益に関しては、海外子会社の抜本的構造改革に関して複数の選択肢を検討しており、それぞれで影響額が大きく異なる事から、現時点では合理的な費用の影響額を算定することが困難であるため未定といたします。
- ◆ １株あたり年間配当は前回見通しから変わらず、20円/株（中間5円/株、期末15円/株）を予定。

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

セグメント別見通し

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	◆ 主要顧客である半導体製造装置市場を中心に昨年末からの受注増加が継続しており、上期末の受注残は過去最高を記録し、すでに2027年の前半まで製造キャパが埋まっている状況。人員増や生産効率化投資によって増産を推進中。 ◆ 高水準の受注は少なくとも来年前半までは続くとの声が多く、当面は受注増への対応が中心となるが、キーアカウントへの注力や新規分野の開拓など、市況の山の先を見据えた対応も進める。
金型システム事業	◆ 上期はモーターコアの新規大型プロジェクト量産立上のために一時的な費用が発生したが、下期には安定的な量産体制を整え、利益を安定的に創出できる体制の構築を目指す。 ◆ モーターコアの大手顧客であるEV OEMや家電メーカーからの発注は変動が大きいため、フレキシブルな生産体制の構築や顧客との緊密なコミュニケーションによる情報の早期収集により、安定して利益を稼ぐ体制への転換を図る。 ◆ 金型部門では、上期は短納期対応による外注費増の影響を受けたが、作業の内部取り込みを進め、コストの低減を図りつつ、短納期に対応できる体制を構築する。
機工計測システム事業	◆ 工作機械、要素機器ともに市場は大きく伸びており、上期の受注は好調に推移した。下期も好況は継続すると見込まれることから、積極的な営業活動を継続する。 ◆ 省エネルギー性能が評価されている工作機械新機種や半導体製造装置メーカーからの引き合いが強いロータリー研削盤を中心に、国内市場に加えて中国・ベトナムを中心とする海外市場でも拡販を図る。

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

3. TOPICS

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

駆動システム事業・機工計測システム事業の受注状況





- 駆動システム事業の受注額は25年12月より大きく増加をはじめ、9月まで過去最高の水準が継続。
  これに伴って、受注残高も8月以降は過去最高を記録
- 機工・計測システム事業に関しても今年度に入って工作機械を中心に受注が急増。機工・計測システム事業部の上期の受注高は、現商品構成となってから過去最高を記録

2026© KURODA Precision Industries Ltd.

グローバル電動車プロジェクト

グローバルで59件の電動車プロジェクトが進行中(2026年10月時点)



2026© KURODA Precision Industries Ltd.

JIMTOF2026に出展

- 2026年10月26日（月）から31日（土）まで東京ビッグサイトで開催された「JIMTOF2026」に出展し、当社の平面研削盤・ハイドロリックツールを紹介。

- 「Smart Evolution – 省エネ・省スペース・省人化で精密加工をグレードアップ」をコンセプトとして製品を展示。ロータリー研削盤「GSR-600」、精密平面研削盤「GS-64CV」等の新商品を展示したほか、ハイドロリックツールはホブカッター用のサンプル等を展示した。

- JIMTOF2026全体では来場者が前回よりも1割程度減少したが、当社ブースは集客目標を大きく上回った。引き合いの件数も目標を超過達成。「GS-64CV」はコンパクトさと操作性の良さを十分に訴求でき、「GSR-600」も多くのセラミックス関係顧客の関心を引くことができた。ハイドロリックツールも歯車研削、セラミックス加工等に関する問い合わせが多く、今後の新規顧客開拓が期待できる。







JIMTOF2026における当社展示ブースの様子

© 2026 KURODA Precision Industries Ltd.

- 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。

- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

- 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】
黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当
TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：https://www.kuroda-precision.co.jp

2025© KURODA Precision Industries Ltd.